

平成 26 年 2 月 16 日(日)協働のまちづくり活動支援事業報告会を開催しました！

■ 開催の主旨

市民と行政による協働のまちづくりを推進するため、NPO・市民活動団体等と市民の皆さんとの交流と地域コミュニティの再生や住民主体のまちづくりを考える機会として、市が支援した協働のまちづくり活動支援事業の成果発表となる平成 25 年度報告会を開催しました。

1. 日時・場所

- 平成 26 年 2 月 16 日(日) 午後 1 時 30 分～4 時 30 分
- 江別市民活動センター・あい（江別市野幌町 10 番地の 1 イオンタウン江別 2 階）

2. プログラム

●協働のまちづくり活動支援事業の事例報告

○報告団体(報告順)※カッコ内は連携団体

メディネット江別(江別観光ボランティアガイド)

江別創造舎(のっぽろ七丁目放送局)

子育て支援ワーカーズきらきら

あおむし人形劇団(大麻沢町サンゴールド自治会)

黒澤記念室内楽団

○コメンテーター



岡本 浩一 氏



阿部 晃治 氏



斉藤 ちず 氏

(北海学園大学工学部建築学科 准教授) (江別市自治会連絡協議会 会長) (NPO法人コンカリーニョ 理事長)

【メディネット江別】

『我がまち江別を知ろう、知らせよう事業』

報告者：ICTを活用した江別の情報発信に取り組んだ。事業内容としては、江別の良いところを発信しようということで、観光ボランティアガイドの活動状況を撮影し、DVDを製作した。

観光ボランティアガイドの活動ビデオとして、6月16日のファミリー森林浴ウォーキング、7月14日のやきもの市で、それぞれ活動の様子を紹介するDVDを作った。

DVDは、観光協会や情報図書館に提供した。また、屯田資料館の紹介ビデオも作り、ちえりあ映像フェスタに応募したところ、上映されることとなった。

さらに、後継者の育成として、ビデオ講座を行い、4名受講いただいた。嬉しいことに、この中から当団体への入会希望もあった。

今後の展開としては、会員数を増やしていくための講座の定期開催、ネットテレビとして、常時プログラムを流すということを考えており、ここで放送するビデオ作りに向け、他団体との連携を考えている。



連携先団体（江別観光ボランティアガイド）

観光案内は出来るが、案内を映像として残したり、それを全国に発信したりすることは出来ないの、協働することでそこを補えるのが有りがたい。講座を行うときもDVDがあると、より深くお伝えすることができる。

今後も江別市を分かってもらえるよう、自分たちも学びながら活性化につなげるため、メディネットとも協働して活動を進めていきたい。

岡本：地域の情報発信が地域にどう貢献したかを知りたい。子どもたちに知ってもらうなら、もっと色々なところに配布しても良いのではないか。

報告者：私たちの活動がICTの活用を中心に行っていることと、学校等とのつながりがあまりないので、そこまで到達していない。今回は生涯学習という切り口で情報図書館にDVDを置かせてもらうこととした。

岡本：江別を愛してくれる子どもが増えるのも大切と思うので、世代限らず広く展開していける形を目指してもらおうと、もっと良い活動になると思う。

斎藤：今後、江別のまちめぐりみたいなものをまとめて一枚のDVDにして、それを観ると江別を観光できるというものを作る構想はあるか。

報告者：今まで撮ったものも含めて、そこを目指すことは考えている。

斎藤：急ぐ必要はまったくないが、そのまちにいる人だからこそ見つけられる宝物を載せたまちガイドみたいなものがあれば、ステキだと思う。大型のガイドブックには載らないような情報を拾い上げられるような。

報告者：今の組織の体力では厳しいが、そういうものが出来ればいいと思っているので、頑張りたい。

阿部：昨年の森林浴ウォーキングには、私も参加したが、ガイドがとても良かった。今後も観光ボランティアガイドと一緒に仕事するということだが、来年度は、別の団体との連携も考えるとの話もあった。どのような団体と連携するのか聞きたい。

報告者：来年度の予定は未定だが、江北まちづくり会のイベント撮影などを考えている。

【江別創造舎】

『江別カルタで辿る江別物語』

報告者：江別カルタを活用した地域振興と、世代間を超えた交流ツールとしての一助にすることを目的として、事業を行った。主な事業内容としては、カルタと合わせた動画の作成と、江別カルタ大会の実施を行った。このカルタ大会ではライブ中継を行い、60名近く視聴した。この場では江別市職員の大川氏から「江別の宝物」と題した基調講演や、江別検定クイズとして、カルタに使った題材を元にしたクイズ大会も行った。



この事業の成果としては、皆様に参加してもらうことで、江別を懐かしいと言う人たちとの情報交換や、インターネット中継による会場のリアルタイム配信が、愛知県などからの問合せにつながったことである。今後もこういった形で江別の文化を伝承するための活動を継続していきたい。

連携先団体（のっぽろ七丁目放送局）

ネット配信による新たな告知方法の提案や、江別の文化的活動が映像として残ることにより、今後も持続的な活動の支援が行える。協働することで江別の地域振興活動を継続していきたいと考えている。

今回の事業では、アナログ的側面とデジタル的側面の融合ということだったが、今後もデジタル的側面から、色々な方に江別カルタをPRし、使って頂けるようにしたい。

阿部：自分の自治会でもカルタを購入し、もちつき大会で子ども達と利用した。内容は子どもにとっては難しかったかもしれないが、理解することよりも子どもの頭の中に江別のことが自然と入ることが大事だと思う。そういう意味では、子どもを対象とした地域の文化振興としてカルタを広げていくことは今後も続けて行ってほしい。今後は、大きなイベントばかりではなく、広く広がる取り組みとして、自治会に浸透するようなことをしていくと、市民にもっと広がるのでは。

斎藤：カルタという原始的な遊びとインターネット放送との融合は面白く、ポテンシャルが高いと思う。各学校、自治会に一つという形で持ってもらえると、他の展開が可能だろう。ところで、カルタとDVD映像はどうリンクしているのか。

報告者：カルタの題材となった所を取り上げ、DVDで紹介している。

斎藤：DVDの映像に、絵札がマークのように入っていると、子どもにもカルタとの関連が分かるのではないかと。

岡本：愛知県等からはどんな連絡があったのか。

報告者：それぞれ各地域のカルタに関わっている方から、興味を持って問合せが来た。

司会者：他の団体との協働により補助率が上がるが、これによる負担減は大きいのか。

報告者：活動での問題は活動費なので、連携して専門知識を補える上に、補助率も上がるのは両方において大変助かることで感謝している。

【子育て支援ワーカーズきらきら】 『子育て・子育て応援「日曜親子ひろば」』



報告者： イオンタウン江別と活動センターの協力を得て、6～11月まで月1回日曜日に「日曜親子ひろば」を実施した。遊びが目的の親子以外に、買い物ついでに立ち寄る親子や、休日に子どもと過ごす父親、祖父母など多様な人に参加して

もらい、子どもにとっての遊びの大切さや、子育ての楽しさを実感してもらうことなどを目的とした。

イオンタウン江別の協力により、イオンのチラシにも告知を掲載してもらったり、館内放送を行ったりした。キラキラのこれまでの活動では、開催時間を10～14時としていたが、利用客の動きに合わせて11～15時と変更した。月に一回だが、交通の便も良いこの場所で行うことで、父親や祖父母の参加もあり、ひろば開設の意義を感じた。市内で子ども向けの活動をしている団体、個人の方とも連携し、毎回読み聞かせや音楽演奏などスポット的な活動をし、家族で楽しんでもらえる工夫をした。また、今回の助成金で購入した玩具もとても好評だった。

補助に頼らない自立化に向かってほしいと選考会時のコメントもあったが、昨年12月に出来た江別市子育て広場「ぽこあぽこ」の受付業務と清掃業務、託児ルームの運営を受託することが出来た。ここでの活動に、これまでの事業で培ってきたノウハウや他団体との連携関係を活用していきたい。

最後に、3年間この事業に取り組んできて、協働だからこそ出来ることや、同じ目的を持って取り組みをしている団体がいること、また、自分たちの活動を応援してくれている人がいることを知り、やる気につながった。当団体の情報発信力は弱いですが、参加してくれる人が増えるように努力していきたい。

斎藤：この3年間で成長できましたか？ 隣のスペースはとても良い。こういう拠点ができる、ここから口コミで広がっていくだろうし、きっちり広報していけばなんらかのイベントも行えるだろう。あとは、若いお母さんたちに対して、携帯で見られるようなWEB等の情報発信を、そういう分野に強い団体と連携して行くと良いと思う。今回紹介のあった玩具を作る講座やキットの販売をすると売れると思うし、お母さんたちも来ると思う。

阿部：日曜ひろばへの参加人数が少なかったのは残念だが、クリアしていってもらえればと思う。3年間のノウハウを「ぽこあぽこ」の活動にも是非活かしてほしい。受付とか清掃だけではもったいないので、ぽこあぽこの発展にも寄与してもらいたい。

岡本：他にも色々な団体と連携しているのは広がりになり、この事業の主旨を理解されて、活動されてきたことがうかがえた。その上で質問だが、ぽこあぽこでの活動と、団体としての活動のバランスは取れているのだろうか。

石澤：今までは事業性がなく、団体に入ってくれていたせつかくの人材も離れていってしまったこともあった。今回、しっかりとした軸が出来たので、そこからきらきらとしてどういうふうに広げていけるのかを頭に置きながら、事業を展開していきたい。特に託児ルームに関しては、ある程度の裁量が与えられている。この3年間、色々な意見を取り入れ事業を実施してきた。今後も利用者の声に耳を傾け、これまでのノウハウも積極的に活かしていきたい。

【あおむし人形劇団】

『一緒に人形劇を作って高齢者コミュニティを元気にしよう！』

報告者：大麻沢町サンゴールド自治会「わらべ友の会」が5月末から活動を開始した。年間上演計画は、七夕、クリスマス、ひな祭りの3回で、新たな手法として人形制作など広がりを持てるようアドバイスをし、演目も新しいものが出来た。もっと多くの方に参加してもらいたいということで、手作りのチラシを配布し、活動内容や練習日程などをPRした。去年から活動している仲間から口コミで広げることもした。さらに、男性の継続的な参加を目指し、そこまでは至らなかったものの、舞台作りのお手伝いや、サンタの恰好で盛りあげてもらったりするなどの側面支援を行ってもらった。「わらべ友の会」は、脚本も自分たちで作成し、練習も終盤は週2回に増やすなど、素晴らしい自主性と仲間意識で、当初の目的であるコミュニティを元気にすることができていた。また、先ほどの発表にもあったが、きらきらとの連携で、日曜親子ひろばでの上演も行った。



今後は、この活動を続けていけるように、演目を増やしたり、技術の向上に努めたりしつつ、近隣の自治会や子どもの施設などで上演するなど、活動の場を拡大していきたい。それがやりがいや生きがいとなって人形劇制作により熱が入り、コミュニティのさらなる結束にもつながることと期待できる。

連携先団体（大麻沢町サンゴールド自治会）

昨年からはじめたが、人形劇と関わりが無い人間が集まってできた会なので、試行錯誤しながら、あおむしさんからのアドバイスを受けて今に至っている。モノづくりの大変さを感じているところだが、こうした流れの中で会員が結束してとても良い状態で進んでおり、一人も辞めていない。これが本当に長く続けていけたら良いと思う。最初は自治会の中での上演だったが、最近では、近隣のお子さんにも来て頂いて、周りに少しずつ広がりつつある状況が生まれており、やって良かったと思っている。今後どのような活動になるかは分からないが、続けていきたいと考えている。

岡本：七夕、クリスマスの上演にどれぐらいの人が参加したのか。

連携先団体：七夕では40名前後で、子どもはそのうち10名前後、クリスマス会では50名近くであった。前回からの口コミもあり、当自治会の子どものみならず周辺からも20名近い参加があった。

岡本：男性の参加もあったとのこと、今後ともこういうチャンスがあればより良くなっていくだろう。

斎藤：人形劇は楽しいですか？

連携先団体：最初は創作活動はあまり好きではなかったが、こういう仲間に加わり、初めてモノづくりを体験し、絵を描いたり、色塗りをしたり、創意工夫をすることをこの年代になって求められて、今また改めて楽しめ、モノづくりの喜びを感じている。それは他の仲間も同じ感想を持っている。

斎藤：先走るようだが、わらべ友の会はもう自立できそうなので、困ったときだけあおむしさんが助力に行き、あおむしさんは他の自治会で新しく人形劇団を立ち上げてはどうか。わらべさんは、さ

らに他の保育園や高齢者施設などに押しかけて公演しては。男の人の参加が少ないのを課題と思わず、やりたい人がやるというスタイルが良いと思う。自治会さんの言葉が一番の成果と思う。是非それぞれ続けていってほしい。

報告者：市からまた他の支援があれば、他の自治会への展開も考えて行きたい。

阿部：地域の絆が薄くなっている中で、こういう活動を通して住民の絆を深めることができ、自治会長も感謝しているのではないかと。今後、他の自治会にも活動状況を知らせていってほしい。自治会の中では、この活動をどう位置付けているのか。

連携先団体：スタート時点では、自治会長が代表であったことから、自治会活動の一環として始めた。会長も変わり、今後どのような位置づけで行うかは、昨年からの課題であった。自治会活動としての「わらべ友の会」という位置づけとなると、活動もしやすい。同好会となると資金面でも大変であり、自治会から多少なりとも助成を受けられればと思っているが、次の総会でその辺りを話し合いたいと考えている。

【黒澤記念室内楽団】

『明日を担う江別の子ども達へ、市民の手で創る江別ジュニアオーケストラ！』

報告者：江別には子ども向けの合唱団はあるが、吹奏楽やオーケストラとなると子ども達の活動の場がないので、黒澤記念室内楽団が受け皿として支援をし、ジュニアオーケストラを作ることとした。とはいっても、いきなりオーケストラとはならないので、ヴァイオリン体験会を計4回実施し、子ども達にヴァイオリンに触ってもらい、そこからオーケストラへの参加者を募ることとした。講師は群馬県から第一人者をお呼びした。体験会終了後、参加された方へ説明会を10月に行い、正式にジュニアオーケストラを設立した。

江別で設立することが出来たが、これを先行モデルとして、他の地域にも発信していきたい。ただ単に、各地にジュニアオーケストラを作るのではなく、このような支援事業を受けて、まちづくりの一部として設立できたことの意味は大きいと思う。



課題としては、メンバーを増やすこと。ヴァイオリンを習っている子どもはいても、オーケストラに参加するには色々と壁もある。また、子どもに合わせた種々のサイズのヴァイオリンも不足している。地域との結びつきとして、黒澤も中心になって進めているが、今後は地域に出向いてジュニアオーケストラを大人の方々に観てもらい、応援の輪を広げていきたい。

阿部：僅か4回の指導でこんなに出来るとは思わなかった。まずは設立できたことにおめでとうと言いたい。ところで、体験会には15名参加したということだが、全てがジュニアオーケストラに参加しなかった理由を聞きたい。それから、質の向上が子どもたちにとっても励みになると思うが、

どのように展開しようと考えているのか。

報告者：オーケストラへの入団になると、ためられる方も何人かいた。またどこかのタイミングで体験会に参加した方に呼びかけて一緒に出来ればと思っている。質の向上については、まずは楽しんでもらうことを第一にしつつも、仲間がいることで向上していく喜びもわかちあえるので、仲間を増やしていきたい。どうしても越えられない技術的な壁は、大人の方や大学生などにも手伝ってもらいながら指導していきたい。

斎藤：黒澤記念室内楽団の子ども部門という位置づけか。

報告者：名称として、黒澤記念ジュニアオーケストラとはならないので、組織としては別と思っている。ただ、もう少し時間をかけて独立した組織に育てていきたい。

岡本：群馬から講師を呼んで、自分が指導方法を吸収し、指導力を身に付けて、その後は独自に取り組みたいということだったが、実感はどうか。

報告者：ジュニアオーケストラ発足からは私が指導している。まだ力不足を感じてはいるが、子どもたちの指導にあたる体制にはなっている。

【コメンテーターによるまとめ】

岡本：キーワードとして、ここにいる皆さんのシャッフルも有りだと思う。似たようなことや、得意分野は重複していても技術が違うこともあるので。質の向上は各取組みで必要になると思う。あとは、ここに来ている団体以外の方々にも、こんな面白いことができるということを皆さんの実感として口コミで伝えていくと、他の団体の方の動機づけ、元気づけになっていくので、そういう展開もして行って欲しい。

斎藤：活動をしている方々が元気になったり、満足したりしている様子を見て、江別市としても嬉しいのではないかと。とても良い事業枠だと思う。事業の補助率の話もあったが、確かにあまり大きい予算規模ではない。でも、だからこそ小さい事業も丁寧に拾っている良さはあると思う。たくさんお金を使えば良いというものでもないで、実際に活動している皆さんと、市民活動センターも間に入りながら、市と相談してはどうか。ジュニアオーケストラの話も50年がかりの仕事だと思うので、3年でファンドレイズの仕組みを作ることができたら凄いと思う。息長く続けていって、パイオニアになるよう期待している。

阿部：どれもみんな素晴らしい活動だが、この支援事業が終わったあとどうするのか、どういう支援が必要なのか、どうすれば自立できるのか。どちらにせよ、せっかく出た芽なので、市民みんな育てていかなければならないのではないだろうか。大事なことだと感じている。